



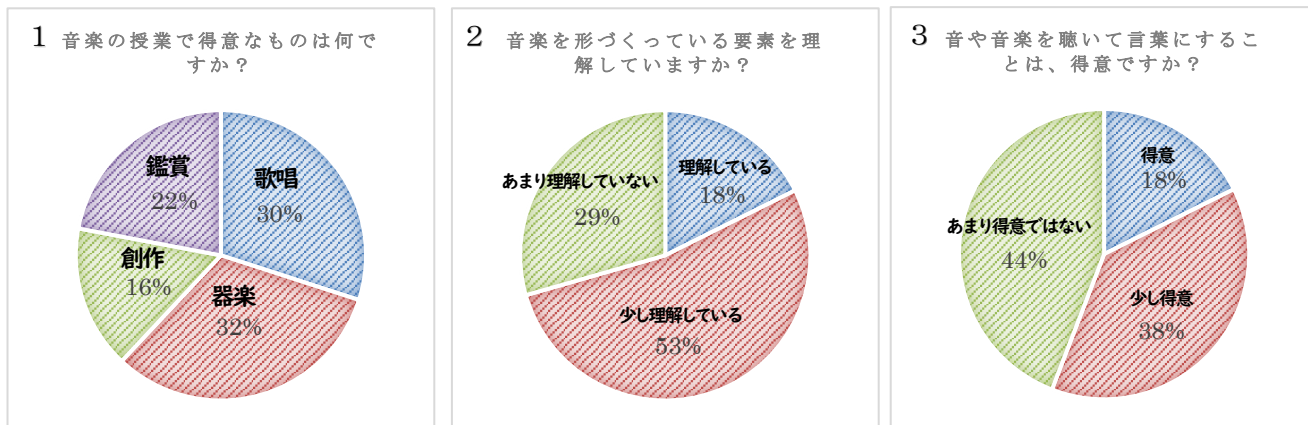
## 第2学年5組 音楽科学習指導案

令和7年11月5日(水) 第5校時  
授業者 教諭 干越 俊明  
場所 3階 第1音楽室

### 1 題材名 「箏」の様々な音色を味わおう

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態



本学級には、何事にも諦めずに取り組むことができる生徒が多くいる。音楽においては、歌唱や器楽と既存する楽曲を演奏することには得意と感じていたり、意欲的に取り組むことができたりする反面、創作や鑑賞といった自身の思いや考えを言葉や創作物で表現することには苦手意識を感じている生徒もしばしばいる。その原因として、音楽を形づくっている要素をあまり理解していない生徒が3割近くいることから、知覚したものや自身の考えがどの要素に当てはまり、どのように伝えていくかということにつまずきを感じ、苦手意識が生じているように考える(アンケート1・2・3より)。本題材で扱う箏を始め、日本の伝統音楽には関心が高いため、知識・技能に偏った器楽の表現活動にせず、グループ活動を通して各々が知覚・感受したものを言葉で伝え、試行錯誤しながら音で表現をしていく活動を積極的に取り入れ、授業を展開していく。

#### (2) 題材について

本題材は、我が国の伝統的な楽器「箏」を取り上げ、音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、それらが生み出す特質や雰囲気味わわせながら表現の学習に取り組んでいく。小学4年生で「箏」を初めて学習しており、中学校3年間では1年時に「基本的な奏法と押し手」、2年時では「様々な奏法」、3年時ではこれまでの学びを活かした「創作」と系統性をもたせている。

指導にあたっては、様々な奏法が必要となる「さくらさくら」の二重奏版を用いる。その際、一方的な実技指導とならないよう、様々な奏法を生徒が音から想像し、ペア学習を通して奏法を見出していき問題解決学習を取り入れる。また、それぞれの奏法による音色や響きが醸し出す特質や雰囲気を感じ、言語化していく学習を通して、表現活動に限らず、鑑賞活動での学びにも生かすことを考える。さらに、二つの旋律がどのように関わり合っているのかについて着眼させることで、それぞれの役割について理解し、曲にふさわしい音楽表現を生徒自身が考えられるようにしたい。最後に、生徒の「知識及び技能」の確実な定着、「思考力、判断力、表現力等」の向上を図るために、効果的なICT機器の活用を取り入れていく。

#### (3) 学習指導要領との関連について

A表現(2)ア「器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること」、イ(イ)「楽器の音色や響きと奏法との関わり」、ウ(イ)「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能」を指導する。

### 3 題材の目標

- 箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者と合わせて演奏する。〈知識及び技能〉
- 箏の音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉
- 箏の音色や響きと奏法との関わり、テクスチャに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組むとともに、日本の伝統音楽に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

#### 4 教材

・「さくらさくら」 日本古謡 / 編曲：鹿谷 美緒子

平調子、4分の4拍子。日本古来の伝統的な春の歌であり、小学校4年生が初めて箏に触れる際にもよく用いられることから、生徒にも馴染みのある楽曲である。今回用いる二重奏に編曲されたものは、ユニゾン部や二声にわかれるところの音の重なりが生徒にも感じ取りやすい教材となっている。二声になる部分では、同じリズムで演奏する箇所、合いの手の関係になっているなど、様々な重なり方を味わえる。また、2つのパートの演奏を通して5つの奏法を身に付けることができ、学習効果が高い教材である。

#### 5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な学習活動

指導事項	A表現 (2) ア「器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること」 イ (イ) 「楽器の音色や響きと奏法との関わり」 ウ (イ) 「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能」
〔共通事項〕ア	音色・テクスチャ
イ	音階・和音
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“箏”の様々な奏法による音を聴き、どのように奏でるのかを考える。</li> <li>・様々な奏法による音色と基本的な奏法による音色の違いを感受する。</li> <li>・二つの旋律のそれぞれの役割や重なり合ったときの全体の響きを感じ取り、ふさわしい器楽表現を創意工夫する。</li> </ul>

#### 6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<p><b>知</b>①箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。</p> <p><b>技</b>②創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者と合わせて器楽で表している。</p>	<p><b>思</b>①箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</p> <p><b>思</b>②箏の音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b>①箏の音色や響きと奏法との関わり、テクスチャに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組むとともに、日本の伝統音楽に親しもうとしている。</p>

#### 7 指導と評価の計画（全4時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・主な学習活動	評価規準		
		知・技	思	態
1	<p><b>◆箏に関心をもち、音色と奏法との関わりについて理解する。</b></p> <p>○日本の伝統的な楽器“箏”に関心をもち。 ・“箏”の歴史や基本的な奏法について復習する。（前年度までの既習事項） ○箏の音色と奏法との関わりについて考えながら、様々な奏法について知る。 ・「スクイ爪」「流し爪」の音を聴き、そこから2人組でどのように演奏するかを試行錯誤しながら奏法を見いだす。 ・それぞれの奏法がどのような感じがするかをワークシートに記入する。 ・箏1のパートを演奏する。</p>	↓	↓	<b>態</b> ①観察・記述
2 (本時)	<p><b>◆箏の音色と奏法との関わりについて理解し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</b></p> <p>○箏の音色と奏法との関わりについて考えながら、様々な奏法について知る。 ・「ピッチカート」「トレモロ」「合せ爪」の音を聴き、そこから2人組でどのように演奏するかを試行錯誤しながら奏法を見いだす。 ・それぞれの奏法がどのような感じがするかをワークシートに記入する。 ・箏2のパートを演奏する。</p>	<b>知</b> ①観察・発言・記述	<b>思</b> ①観察・発言・記述	↓

3	<p>◆2つの旋律の関わりについて理解し、ふさわしい音楽表現になるよう思いや意図をもつ。</p> <p>○2つの旋律の重なりが生み出している特質や雰囲気を感じ取りながら、曲にふさわしい音楽表現をするためにどのように演奏するか思いや意図をもつ。</p> <p>・箏1と箏2が「ユニゾン」や「合いの手」の関係になっているところを見つけ、それぞれどのように演奏するかをワークシートに記入する。</p> <p>・自身の演奏をタブレットで適宜録画しながら振り返り、より良い器楽表現に繋げる。</p>	↓	思 ②観察・発言・記述	↓
4	<p>◆様々な奏法を身に付け、2つの旋律の重なりを聴きながら他者と合わせて演奏する。</p> <p>○各々が選択した旋律を演奏し、自身の課題に取り組みながら、演奏の仕上げをする。</p> <p>・自身の演奏をタブレットで適宜録画しながら振り返り、より良い器楽表現に繋げる。</p> <p>・録画したものを指定フォルダに提出する。</p> <p>○本題材のまとめの合奏、振り返りをする。</p>	技 ②観察・演奏・動画		熊 ①観察・記述

### 8 本時の学習指導（2/4時）

#### (1) 本時の目標

- ・箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解する。〈知識及び技能〉
- ・箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える。〈思考力、判断力、表現力等〉

#### (2) 展開

○学習内容 ・主な学習活動 ※予想される生徒の反応を含む	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法・手立て）
<p>つかむ・見通す</p> <p>1 学習の雰囲気作りをする。 ・挨拶 ・前時の復習（箏1）</p> <p>2 本時のめあてと課題を設定・提示する。</p>	<p>○日本の伝統音楽における礼儀作法にも触れ、「和」の心を育む。</p> <p>○基本的な奏法や2つの奏法（スクイ爪と流し爪）について復習し、それぞれの奏法がどのような感じがするかを確認し、本時の学習に繋げる。</p> <p>○生徒の言葉を用いながら目標を設定・提示する。</p>
<p>めあて「箏2」を演奏しよう</p>	<p>課題 3 4 5 五十一' はどのように演奏すればよいのだろうか？</p>
<p>考える・深める</p> <p>3 箏の音色と奏法との関わりについて考えながら様々な奏法について知り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <p>・「ピッチカート」「トレモロ」「合せ爪」の音を聴き、そこから2人組でどのように演奏するかを試行錯誤しながら奏法を見いだす。</p> <p>・全体で正しい奏法を確認し、それぞれの奏法がどのような感じがするかをワークシートに記入する。（ICT機器）</p> <p>※「トレモロ」で苦戦する。</p> <p>・箏2のパートを演奏する。</p>	<p>○教員の範奏をブラインド越しに聴き、音に注目させながら、音から奏法について考えさせる。</p> <p>○「どんな感じがしたのか」「なぜその奏法だと思ったのか」の視点を持つ。</p> <div data-bbox="667 1496 1433 1646" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ピッチカート S「柔らかい感じがする。ボンって感じがする。」</p> <p>トレモロ S「連打している。ガチャガチャ、ギザギザした感じがする。」</p> <p>合せ爪 S「一本だけしか弾かないときより力強い感じがする。」</p> </div> <div data-bbox="667 1668 1433 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒のつまずき…連続で弾くことができず、つかえた演奏になる。 ⇒爪の当てる角度に注意させる。（糸と爪が接する面積が広ければ広いほど抵抗感は強くなるため、接する面積を狭くする。）※理科の学習との関連</p> </div> <p>☆思①箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。（観察・発言・記述）</p>
<p>《「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント》 それぞれの奏法の音色を聴き、それらの音色を自分なりの言葉で表現することができているか。 （例）ピッチカートは柔らかい感じがする。トレモロは連打している感じがする。合せ爪は力強い感じがする。</p> <p>《「十分満足できる」状況（A）の例》 「ピッチカートの音色は周りに溶け込む感じがして聴いていて心地よい。トレモロがあることで曲全体の盛り上がりやにぎやかな感じがする。合せ爪は2つの音が重なっているためピッチカートよりも迫力があり、曲の締めくくりにふさわしいと思う。」と、曲全体や演奏効果にも視野を広げ、自分なりの考えを書いている。</p> <p>《「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒への働きかけの例》 基本的な奏法と様々な奏法を交互に聴き、比較させながら音色や醸し出す雰囲気に注目させる。他者の意見紹介や黒板掲示をしている言葉集を参考にしながら、自身の考えを書けるように促す。</p>	

## まとめる・振り返る

- 4 本時の学習をまとめ、合奏をする。  
・それぞれの奏法のコツをまとめ、学習の振り返りを行う。

- それぞれの奏法について「どのようにすると演奏できるか」を自分なりの言葉でまとめさせる。  
○【こまつな】の視点で振り返りさせる。

☆知①箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。

《「おおむね満足できる」状況 (B) と判断するポイント》

それぞれの奏法について、全体で共有したコツを自分なりの言葉でまとめることができているか。

(例) ピッチカートは、爪をつけていない指で糸を持ち上げるようにして弾く。

トレモロは、糸と爪の接する面積に注意しながら前後に行き来するように弾く。

合せ爪は、親指と中指で2つの糸を同時に演奏し、それぞれ弾いた後は次の糸に当てる。

《「十分満足できる」状況 (A) の例》

「箏の糸は思っていたよりも固く張っているため、ピッチカートは指先に力を入れてしっかり持ち上げるようにする。トレモロでは、右の手首を支点にして程よく力を抜きながら演奏すると上手くできた。合せ爪は、二つの音がバランスよく鳴っているかが大事だと考えた。中指が弱くなりやすいから、中指に少し力を入れるようにして演奏した。」と、自身の演奏した音や奏法を振り返りながら、課題を解決するために自分なりの考えを書いている。

《「努力を要する」状況 (C) になりそうな生徒への働きかけの例》

それぞれの奏法を再度一緒に演奏し、生徒の状況に合わせ、手の使い方などを整理しながら、自分の考えを書けるように促す。

## 9 ICT活用計画等

- (1) 教師の範奏の際、生徒に伝わりやすくするために手元を映す。(1～4/4時)
- (2) 部分的に ICT 機器のワークシートを用いることで、机間巡視や発表の時間の短縮に繋げる。(1～3/4時)
- (3) 自身の演奏を振り返り、よりよい演奏になるよう自己調整するために適宜録画する。(1～4/4時)
- (4) 演奏を各自録画し、指定フォルダに提出する。その動画をもとに必要な奏法、身体の使い方などを身に付け、他者と合わせて演奏できているかを評価する。(4/4時)

## 10 振り返りの視点について

八潮市の名産のひとつである「こまつな」を用いて、振り返りの視点を生徒にわかりやすく明示する。

### **ふりかえりの視点**

<b>こ</b>	このように考えた← こんなことが生活とつながっている。
<b>ま</b>	まねしたいな友達の考え←
<b>つ</b>	次に役立つこと← つまずいたこと←
<b>な</b>	何ができるようになったか←